

令和2年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
(1) 希望進路を実現できる学力の充実・向上の実現 (2) 規範意識や人権尊重の理念の更なる徹底と生徒の人間力の伸長の実現 (3) 保護者・地域住民の信頼を高める学校づくりの推進		(1) 「総合的な探究の時間」では生徒の主体性やSDGsの視点で提言できる力を育てる実践を行いある程度の成果が見られた。また、公開授業や授業アンケートを実施し授業改善に活用した。今後は、主体的で探究的な活動をさらに充実させるために、教員の教育力を高め、実践して行くことが大切である。 (2) 3年生については、組織的な指導体制の整備を図ることで進路希望に応じた丁寧な指導を進めることができた。今後は、高大接続・入試改革を見据えて教員個々の指導力向上を図り、1年次から学力を定着させ、ガイダンス機能を充実させることが必要である。 (3) 部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、積極的な活動が行われ、全国大会や近畿大会・地区大会での活躍が見られた。今後も、学業と部活動が両立できるよう条件整備を一層進めることが必要である。また、社会性等を身につけるために学校行事などの特別活動においても積極的な活動を行うとともに、成人年齢の引き下げに伴い、さらなる主権者教育の充実が望まれる。 (4) 生徒が安心して学校生活を送れ、部活動や諸行事にも積極的に取り組む学校として評価を得ている。一方、挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、マナー向上、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒の手立てやいじめ・体罰等の予防対策には引き続き重点的に取り組む必要がある。 (5) 地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。今後、見やすいホームページづくりや学校便りなどを通して、中学生や地域の方に本校生徒の活躍がよくわかるよう情報発信を行い、さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。		○新型コロナウイルスから命と健康、そして学校教育を守る取組を通して、本校の新たな学校文化を創造する。 ○交通ルールやSNSのマナーを向上させる取組を進め、公共心や人権を尊重する態度を育てる。 ○普通科と理数探究科がそれぞれの特色化を一層推進し、西高ならではの魅力ある学校づくりに努める。 ○生徒が主体性を発揮して自己有用感に裏付けされた自尊感情を育む場面を増やし、探究活動を中心にアクティブラーニングを取り入れた主体的、対話的で深い学びを推進し、質の高い学力を育む。 ○ICT等の活用を進め、「わかった」「できた」という感動を大切に、さらなる高みへと導く学習指導・キャリア教育を行い、希望進路の実現につなげる。 ○文武両道の校風と挨拶をする文化を大切に、チーム西高としてつながる力を高め切磋琢磨する教育環境づくりを進める。 ○「地域に開かれた学校づくり」を充実していくために、生徒の活躍する姿を広く発信して積極的な学校広報を行う。 ○信頼される学校づくりに向け保護者連携を進めるとともに、教職員の同僚性を高めて指導力向上を図るOJTを推進する。	
評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	学校の取り巻く危機に対して万全の対策を図る	新型コロナウイルスから派生する様々な危機から生徒と学校を守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係外部機関と密な連携を図る。	A	【成果】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業、時差登校、在宅勤務などの今までに経験したことのない対応があったが、京都府教育委員会との連携、京都府の専用相談窓口からの助言などにより、生徒・教職員の感染を防ぐことができた。 ・部長会議、職員会議のペーパーレス化を図ることで、印刷作業時間の削減、さらには紙資源の消費を抑えることができていた。 ・スマートスクール推進事業の指定を受け、ICT機器を活用した授業を増やすことができた。 ・特色推進部、理数探究科学科長を中心と探究活動を推進することができている ・ホームページ、西高だよりの充実により、中学生への情報発信を効果的に行うことができた。また、様々な取組を報道機関へ案内することで、府民に対しても情報を発信することができた。 【課題】 ・スマートスクール推進事業による電子黒板機能付きプロジェクタ等の設置が遅れ、ICT機器を活用方法については、新たな手法を模索し、質を向上させる必要がある。 ・分掌間の連携を円滑にする必要がある。	
	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が目標と課題を共有し、互いに学び切磋琢磨して教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させることができるよう、働き方改革にも資する職場環境作りとOJTを充実させる。 分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。	B		
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	生徒が誇りや志を抱き自らの成長を実感できるような教育活動を推進する。そのために、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。 スマートスクール推進事業により配置されるICT機器を活用した授業をデザインする。	B		
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	地域から信頼評価され、中学生から選ばれる学校づくりを行う。校種間連携や広報活動を通して学校の魅力が伝わるよう情報発信に努める。 本校の教育内容・実践等に関して、ホーム・ページ等を通じて、情報発信し「地域に開かれた学校づくり」を推進する。	A		
教務部	校務運営	教科指導力向上への取組	研究授業を全教員体制で実施し、実態の把握に努め、主体的・対話的で深い学びに向けての研究を推進する。	A	【成果】 ・全教員で研究授業週間を実施できた。お互いに参観しあうことで授業力向上について再認識することができた。 ・年度当初の休業中、生徒の学びを止めないため各教科の連絡調整に努めた。 ・出張時などの時間割変更の要望にできるだけ応えるようし自習を極力避け授業時間を確保することができた。 ・授業アンケート等の実施方法を工夫し、時間短縮、作業の軽量化を図ることができた。また指導力向上のため自身の授業を振り返る機会とした。 【課題】 ・円滑な教育活動を進めるために連絡調整に努める。 ・各教科での評価規準の作成に向け調整に努める。
		基礎学力充実に向けた取組	各教科での取組を支援し、学習環境の調整・整備につとめる。	A	
		勉学と部活動の両立に向けたシステム作り	行事の精選や各取組の整理をし、両立を妨げないような環境を整える。	A	
		育成すべき資質・能力を踏まえた評価規準の作成	新学習指導要領実施に向け、育成すべき資質・能力の共通理解をはかり、各教科での評価規準作りを進める。	B	

令和2年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）

生徒指導部	挨拶の励行・マナーの向上	挨拶の励行、ルールの遵守とマナーの向上	挨拶をする文化を大切にし、生徒会役員を中心に全校に挨拶の輪を広げる。	B	B	【成果】 ・コロナ禍において、行事や諸活動に制限・制約がある中、形態や内容を変更して実施できた。実施においては課題もあったが、次年度に活かせる取組もみられた。 ・2学期から生徒会の挨拶運動が行えた。現在の状況下で元気な挨拶は控えているが、目礼（黙礼）というかたちで継続できた。今後もその大切さを意識させたい。 ・例年の生徒会活動と同様にはできない中、放送機器を使用するなど活躍の機会を設定できた。 ・特別指導は0件、生徒指導部長注意1件。特別な問題事象やトラブルはなかった。しかし、服装・頭髪やスマホの使い方など注意を払い指導を継続していきたい。 ・いじめの事象はなかった。アンケートでも出てきていないが、全教職員で引き続き生徒の言動に注意を払っていきたい。 【課題】 ・盗難などの事象が発生したため、全教員による巡視も協力いただき、生徒に重ねて注意喚起・自己管理を呼びかけた。問題が発生しない環境・雰囲気や仲間作りを構築する。 ・早期の計画・提案、迅速な取組及び統一した指導に努める。 ・小さな気付きを見逃さず、改善を促す。
			社会や学校のルール・マナーを守る意識を高め、生徒同士が快適に学校生活を送れるよう努める。	B		
	安全・安心	安全・安心な学校の体制づくり	自己管理・危機管理を徹底させ、事故・トラブル等を未然に防ぐよう指導する。トラブル発生時の対応についても指導を行う。	A	B	
			スマートフォンの取扱やSNSの利用について意識を高める教育をする。	B		
	いじめ防止	いじめの防止と早期の対応	「いじめ」を未然に防ぐため、日常における教職員の観察意識を高める。	A	A	
			いじめや問題行動の早期対応を図り、関係者と連携を密にし解決につなげる。	A		
自主的活動	生徒会活動の活発化	生徒会役員や生徒の力が発揮できるよう諸活動を支援する。	B	B		
	ボランティアバンクの活性化	多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加できる機会と体制を設定する。	B			
進路指導部	希望進路の実現	進路指導を通じて、明確な目標設定や将来展望を持てるようキャリア教育の視点から指導にあたっていく。	早期から生徒の進路意識の向上を図っていくという視点から、各種の進路行事における計画・実施・振り返りを充実させていく。	A	A	
			模擬試験の有効活用や模試分析、進学課外等を通じて、生徒の学力伸張を図る。	B		
			増えてきた総合型選抜、学校推薦型選抜に対応した面接や小論文の指導を充実させ、進路結果に結び付ける。	A		
			就職希望者への指導を早期から丁寧に行っていくことで、社会人としての自覚を育てていく。	A		
	進路資料の整備を図り、情報を校内で共有し、担任の進路指導を支援する。	A				
研修の充実	入試改革に伴う研修を通じて、速やかに指導に還元できる研修の立案・実施	入試改革等の動きに速やかに全校体制で対応できるよう、研修を通じて校内での情報発信に努める。特にポータルサイトへの対応を喫緊の課題とする。	B	B		
保護者連携	進路指導部、学年団、生徒・保護者との連携強化	各種保護者対象行事のみならず、PTAメール等の発信を通じて有益な情報発信に努める。また学年部との情報の共有化を図り、丁寧な保護者対応に努めることで信頼を得る。	A	A		
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心の健康問題の早期発見及び対応できるような支援体制作り	学年部や教科担当者と連携し、気になる生徒について共通理解を図る。また、適切な支援を組織的に行う。	B	B	
			スクールカウンセラーや専門機関との連携を図り、支援の方向性にそって共通理解のもと行う。	B		
		感染症・熱中症対策	教職員や生徒への啓発・広報を通じて、予防に努め、適切な対応をする。	A		
	健康観察を行い、自己管理する力を培う。	B				
教職員研修等	薬物乱用防止、メンタルヘルス、特別支援に関する研修を実施する。	B				
安心・安全な学校生活	清掃活動の充実	校内美化に対する意識を高め、快適な学習環境作りに努める。	B	B		

令和2年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）

特色化推進	広報活動・生徒募集	理数探究科及び普通科の教育システム等の情報を、説明会等を通じて中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供する。また中学生の様子や地域・保護者の考えについて、校内に情報提供する。	B	B	【成果】 ・新型コロナウイルスの影響で、合同説明会が実施されなかったが、各中学校での学校説明会等を通じて、本校の教育活動について説明することができた。また、体験セミナーを校内で実施するなど広報関係の行事を改善した。 ・HPは過年度と比較して大きく更新回数が増加した。 ・スマートスクール推進事業については、今後ICT機器の整備にもない研修などを実施し、利用を推進していきたい。 【課題】 ・中学生やその保護者の意向については十分把握できたとはいえない。 ・総合的な学習（探究）の時間については、基本的には特色推進部で企画運営しているが、組織的な対応や学年部との連携はまだ十分とはいえない。 ・まとまった時間の中で生徒が読書をする取組（朝読書など）を推進していきたい。 ・図書委員会活動は感染対策をしながら実施していたので、十分な読書推進活動ができなかった。 ・芸術鑑賞会は本年度は実施できなかったが、来年度以降の実施について検討することができた。 ・ネットコモンズ等により校内の業務改善に努めることができたが、使用するツールの最適化や教職員間での使用意識の統一についてはまだ十分とはいえない。今後、さらなる効率化を目指していきたい。	
		学校生活における生徒の活躍を、HP、広報紙で迅速かつ生き生きと伝える。また、地域の新聞社など情報機関と連携した広報も行っていく。	A			
		総合的な探究の時間	B			
	図書館・視聴覚教育	図書館活動の充実	図書館オリエンテーションによる利用マナー向上等、環境整備を行う。	B		B
			教員・生徒に向けた情報提供に努め、図書館利用の利便性を高める。	B		
			図書委員会活動を通じて、多様な教育活動に対応した選書及び紹介を行う。	A		
		視聴覚教育の充実	B			
	文化芸術活動の推進	文化事業の紹介など、教育文化の高揚に努める。	C			
	情報化推進	学校の情報化推進	事務局と連携し、校内ネットワークの環境整備をさらに進める。	B		B
			dc1の整理、共有を促し、学校情報のデジタル化を推進する。職員間におけるネットコモンズの積極的利用を推進する。	B		
PTAメール・HP(学校基本情報)で学校情報を迅速かつ分かりやすく発信する。			A			
情報教育の推進		B				
学校・教育の情報化を推進する校内研修を行う。	C					
スマートスクール事業の運営体制を確立させ、各教科と連携し、IT機器の教育活動での利用を推進する。	C					
理数探究科	先進的な理数教育	3年間の科学体験行事の実施時期、実施方法を見直し、体系的な科学体験行事となるようにする。	A	B	・連携機関との調整により円滑に運営することができた。今後も連携先の見直しや実施時期、方法の見直しを続けたい。 ・実験データの扱い方や科学的な考え方について個別に指導することで、質の向上を図ることができている。大学から講師を招き、アドバイスをいただくことで生徒のモチベーションを向上させることができた。教員間の目線合わせや内容の共有は今後の課題である。 ・先進校の視察や課題研究発表会に参加することで、課題研究の指導力向上に努めていきたい。 ・探究活動や英語科との連携の中で、可能な限りプレゼンテーションの機会を設けることができた。これにより、プレゼンの経験値があがり、また生徒自身が課題に気づくことができた。 ・科学コンテストの情報など、様々な発信をすることができた。生徒1名が大阪大学SEEDSに参加した。 ・例年通り、各大学と連携することができた。 ・コロナウイルス感染症の拡大により実施していない。 ・学年部、各教科担当者や連携を取り、進路実現に向けて指導することができた。	
		課題研究の充実	B			
		課題研究指導力の向上	B			
		発表を通じた言語活動の充実	A			
		科学技術コンテスト参加の奨励	B			
	希望進路の実現	高大連携の推進	B			
		土曜講座の効果的な運用	C			
		受験指導力の向上	B			

令和2年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）							
人権教育	人権学習	様々な人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う	様々な人権課題を動かし、系統的・計画的に推進する。また他分掌とも連携し、時間的にスリムアップを図る。 時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。 人権課題解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。	A B A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に全通合同で人権・同和教育研修会を実施し、多くの教職員が参加できた。一人一人を大切に人権・同和教育について具体的に学ぶことができた。 ・人権教育通信human rightsで様々な人権問題を取り上げ、教職員の共通理解を図ることができた。また時代のニーズに応じた学習教材等も紹介してきた。 ・第1学年は子ども兵と子どもの権利について、第2学年は障害者問題について、第3学年は青年の生き方と同和問題について、講演を実施することができた。人権問題を社会問題として正しくとらえ、生命や人間の尊厳についての認識の基礎を培うことにつながった。 ・府高人研中丹ブロック会議の常任委員として毎月の会議や中丹ブロック独自の研修会をコロナ禍ではあったが企画・運営・実施することができた。今後も日常生活の様々な場面でより一層人権感覚の深化に努めることが重要である。 	
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。 中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。	B B			B
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権感覚の向上を図る。 府高人研が主催する様々な研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。 人権教育全体計画に従って、各教科の日常の授業において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。	A A B			
第1学年部	学習指導	基礎学力の充実	授業を大切にすることを意識を育成する。「無断欠席(欠課)・遅刻」をさせない。また、模試・課外・補習等へ積極的に参加させる。 手帳を上手く活用し、学習の振り返り、家庭学習の習慣を確立させる。	A B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験や中間考査などの結果をもとに、各担任が二者面談を実施できた。 ・模擬試験の積極的な受験を促すことができた。また、受験の振り返りシートを書かせ、模擬試験を利用した学力の向上を図ることもできた。 ・コロナ禍ではあるが、長期欠席者は出なかった。しかし、精神的に不安定な様子を見せる生徒がいたり、人間関係におけるトラブルが起きた生徒も見られたりしたため、今後も注視していく必要がある。 ・ほとんどの生徒が、校則を守り、規則正しい生活を送っている。しかし、携帯電話の利用に関する指導が20件程度あった。携帯電話だけでなく、マナー全般について、根気強く注意を促していきたい。 ・休業期間中は保護者を交えた三者面談を実施した。また、気になる事象や欠席については、各担任から保護者へこまめに連絡ができており、保護者と良好な関係が構築できている。 	
		進路実現に向けての取組	進路希望の把握に努め、進路に適した情報提供など、個に応じた適切な指導を行う。	B			
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	教室美化を徹底させ、よりよい学習環境を作る。5分前集合や、提出物の期限を守らせる。教師から積極的に声かけをして、挨拶を励行させる。 校則などの生活規範を尊重する態度を育成する。特に、携帯電話の取り扱いや頭髮加工、化粧をさせない。	B B	B		
		特別活動等への意欲的な参加促進とその活動を通じた社会性や人間力の向上	学校行事・生徒会活動やH.R活動へ積極的・計画的な参加を促すとともに、部活動と学習を両立しようとする姿勢を育成する。 あらゆる機会を利用して、役員などの役割を生徒に与え、その職務の遂行を通じて、責任感や行動力などの社会で必要とされる力を育成する。	A B			
	保護者連携	保護者との継続的な連携	家庭との継続的な連携を密にし、家庭の様子や、学校での状況を交流し、生徒の指導に生かす。	A	A		
	第2学年部	学習指導	基礎学力の定着	学年スローガン「けじめある学びの集団」を掲げ、学業のみならず、あらゆる取組・場面を学びと捉え、人間的な成長を促す。 授業への集中と家庭学習の定着をさらに進めるためにも、教科担当とも連携を取り、効果的な学習を進める。	B B		B
系統的な進路指導を行い、将来展望を明確に持たせる			進路に関する情報を提供し、希望進路をできるだけ早期に決定し、その目標に向けて学習意欲を高め、学力の向上を図る。 模擬試験、資格試験を通して、自己の実力を把握させ、進路希望を実現させるための学力の向上に結びつける。	B B			
生徒指導		生活規範を尊重する態度を育成する	H.R教室等での学習環境を整えさせ、時間を守らせるとともに、公共のマナーを身につけさせる。 服装や頭髮などの身だしなみを整えさせるとともに、規範意識・人権意識の高揚を図る。	A A	A		
		学校行事等へ意欲的に参加する姿勢を育成する	学校行事、生徒会活動、ボランティア活動を通して、主体的・自発的態様の育成に努める。	A			
保護者連携		家庭状況を把握する	定期的に学級通信を出すとともに、必要に応じて保護者面談等を行い、家庭との連携を密にし、学校での様子や、家庭の様子を共有し、生徒の指導に活かす。	A	A		

令和2年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）							
第3学年部	学習指導	授業を中心にした基礎学力の定着と発展的な思考力の深化	授業を通して、基礎的知識を身に付けるとともに、自ら考え判断していくための思考力を高める。全員そろって卒業できるよう教科担当とも連絡を密にする	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力上位層の増加を図ってさまざまな取り組みをしたが、著しい伸長は見られなかった。入学時からの課題であった英語力も最後まで改善の兆しが見られなかった。 しかし、各種推薦入試に向けての対策については、他分掌や各教科担当者との連絡を密にし、一定の効果を上げることができた。生徒自身の学習への取組状況についても、例年より各自が積極的な面が見られた。 ・生徒指導については、日常から生徒・家庭との繋がりを重視して取り組むことができた。 	
		進路希望実現につなげる実践力の養成	入学試験変革期の混乱にただ流されるだけでなく、学ぶことの本質的な意味を忘れることなく勉学に励むとともに、入学試験に通用する実践的な力を養成する。AO入試・推薦入試に対応できる総合的な学力や記述力・論述力を中心に養成する。	B			
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	日々の挨拶、身だしなみ、ルールの尊重等、基本的な生活習慣を確立し、「私」だけを利するのではなく「公」をも尊重することができるようにする。	A			A
	家庭との連携	保護者との信頼関係の醸成	事が起きてからの対応ではなく、平素から保護者との信頼関係を築くようにする。	B			B
学校関係者評価委員会による評価	西舞鶴高校に対する保護者や地域住民の関心は高く、期待も大きい。今年度から始まったICT機器を活用した授業や新型コロナウイルス感染拡大防止の取組を今後も継続し、進化させ、生徒の希望進路の実現だけでなく、安心安全の保障された学校を維持して欲しい。また、教育活動についての情報をより活発に発信することで、地域からの学校理解が高まるようにし、地域の基盤を担う教育機関として一層の高みを目指す教育活動に励んでもらいたい。						
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■舞鶴市などの関係機関との連携により、探究的な活動を充実させ、主体的、対話的で深い学びを深化させていきたい。 ■学力向上、希望進路の実現のために、組織的な取組と指導体制の充実を進めていく。 ■保護者との連携を密にし、タイムリーに情報提供ができるようにする。 						

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）